

果物のもつたいないをなくそう

江戸川区立小松川第二小学校 六年 黒須 あやめ

十一月、福島に住んでいる祖母と祖父から贈られてきたもの、それは「りんご」だ。私は、りんごの甘みや香り、それからシャキツとした食感などがとても大好きだ。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で需要が低下し、フードロスが問題となっている。それを知った私は、自分が力になって少しでも多くの果物をたくさんの人に食べてもらいたいと思った。

これを実現するために私が行ったことは、本来なら捨てられてしまうりんごを祖母や祖父のいる福島県から集めて「りんごジャム」を作るということだ。そうすることで、質や味が悪くなってしまったりりんごでもジャムに変しんさせればパンなどにぬっておいしく食べることができると考えたからだ。

さっそく、届いたりんごで「りんごジャム作り」に挑戦。家庭科の授業で習った皮のむき方や切り方を生かしてがんばった結果、見事なりんごジャムを完成させることができた。実際に、少し味見をしてみるとりんごの味と香りが十分につまったフレッシュな味でとてもおいしかった。これをたくさん作って友人や近所の人にも配った。

私が「りんごジャム作り」を通して皆さんに今一番伝えたいこと、それは、「果物を無駄にしないでほしい」ということだ。果物一つ一つは、私たちの健康のために農家の方々が一生懸命つくってくれている。また、果物は、そのままでも十分おいしいが一つの楽しみ方だけではない。ひと工夫することで本来なら捨てられてもつたいない果物でもおいしく味わうことができる。

果物にも私たち人間のように命があると思う。農家の人々が苦勞して育てた大切な命が。そのため、私は果物の命を一つでも多く救いたい。無駄にしたくない。だから、毎日果物を食べて元気いっぱいの私になりたいと思う。